

I 廿日市市の概要

1 位置及び地勢

本市は、広島県の西部に位置し、大別して沿岸部の廿日市・大野地域、島しょ部の宮島地域、内陸部の佐伯地域、山間部の吉和地域の5地域からなり、総面積は489.49km²で、約86%が山林で占められています。広島湾沿岸（瀬戸内海沿岸部）から西中国山地に至る変化に富んだ地勢を有し、自然環境に恵まれた市です。

瀬戸内海に浮かぶ宮島、沿岸部はなだらかな丘陵とその背後に山地が連なり、極楽寺山等とその尾根が北及び西に連なり大竹市まで続いており、それに沿って平たん地や緩傾斜地が形成されています。

内陸部は、標高200m以上で北東から北西にかけて大峯山等1,000m級の山々が連なり、内部は600m～700m級の山々が複雑に分布し、これらの間を小瀬川、玖島川が流れ、その流域に平地が形成されていますが、まとまった平たん地は幹線道路沿いに限られています。

山間部の標高は耕地部で平均580m、広島県、山口県、島根県の県境に位置する冠山をはじめ、十方山等に囲まれ、これらの山々を水源とする支流を合わせて太田川（総延長103km）が中央部を南から北に貫流し、小規模な高原盆地を形成しています。

歴史的に見ると、沿岸部は古くから山陽道の要衝に当たり、広島県西部における政治、経済、文化の中心地として発展してきました。

本市においては、広域行政、広域合併への取組として平成15年3月に廿日市市、佐伯町、吉和村が合併し、平成17年11月には大野町、宮島町と合併し現在に至っています。

平成28年3月に、新たなまちづくりの指針として第6次廿日市市総合計画を策定し、めざす将来像として「挑戦！豊かさと活力あるまち はつかいち ～夢と希望をもって世界へ～」を掲げています。

市役所の経緯度： 東経 132 度 19 分 54 秒

北緯 34 度 20 分 55 秒（世界測地系によります）

面積： 489.49 km²

人口： 115,984 人*

世帯数： 53,214 世帯*

人口密度： 236.9 人/km²

*人口及び世帯数は令和5年4月1日現在



(図 I - 1) 廿日市市の位置

I 廿日市市の概要

2 地質

本市の地質は、山地の大部分が花こう岩類岩石（角閃石黒雲母花崗閃緑岩・黒雲母花崗岩）からなっています。これは中生代白亜紀のもので、いわゆる広島型花崗岩とよばれるものです。廿日市地域の北方（極楽寺山）には、角閃石黒雲母花崗閃緑岩を覆った段れき層が分布し、市の天然記念物（昭和50年5月15日）に指定されています。

3 気候

（1）廿日市・大野・宮島地域

瀬戸内海式気候に属し、年間を通じて温暖な気候です。地域の北部と沿岸部によって若干の差異はありますが、気温は比較的温和であり、年間の平均気温は、約16℃です。降水量は、年間2,100mm程度で、梅雨期と台風期に多く、冬季は乾燥しますが、温暖な海岸性気候です。

（2）佐伯地域

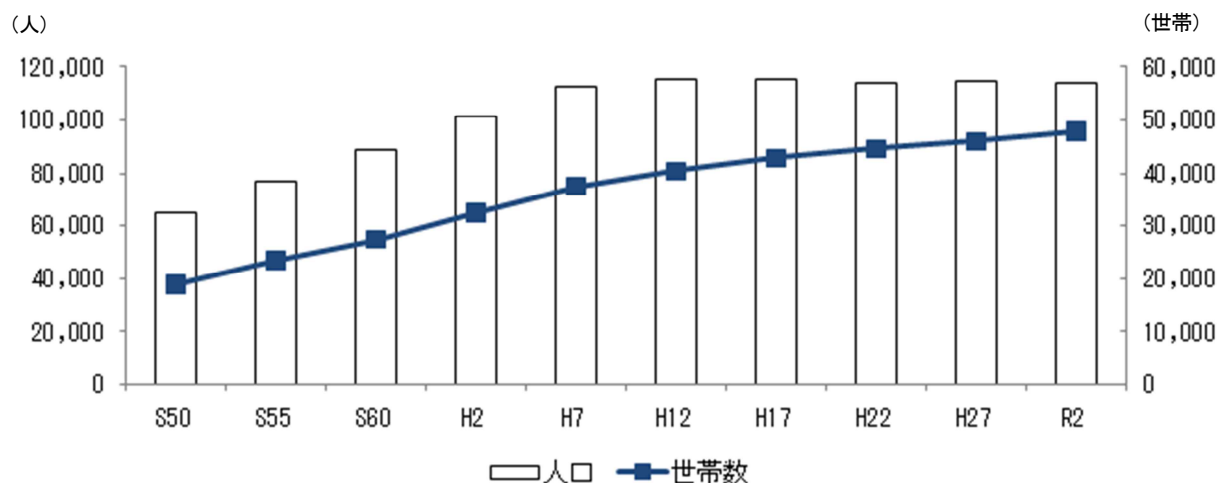
この地域も瀬戸内海式気候に属しますが、高地にあるため冬季はやや気温が低く、積雪も見られます。年間の平均気温は、12.9℃で、このうち1月が最も低く、平均1.5℃で、8月が最も高く、平均25.0℃となっています。降水量は、年間2,100mm程度で、このうち梅雨期の7月が最も多く、月340mm程度、1月が最も少なく、月65mm程度となっています。

（3）吉和地域

冷涼多雨で、平たん地での平均気温は、11℃前後、1月には、－6℃まで下がり、特に寒いです。また、8月は、24℃前後と比較的低く、夏季は過ごしやすいものの、盆地のため霧が発生しやすく、多湿です。降水量は、年間2,400mm程度で、月間雨量は200mm程度、梅雨期の雨量は約900mm、冬季の積雪は、平たん地で50～60cmに達します。

4 人口・世帯数の推移

本市の人口（合併後の人口）は、昭和50年から平成17年までの30年間で約1.8倍と増加しています。それに伴って世帯数（合併後の世帯数）も大幅に増え、約2.3倍となっています。特に市内に大規模な団地が開発された昭和50年代以降、2度の合併を経て、人口、世帯数とも急激に伸びています。令和2年の国勢調査では、人口114,173人、世帯数47,821世帯となっています。地域別で見ると、廿日市・大野地域が人口、世帯数とも横ばい傾向、佐伯・吉和・宮島地域は減少傾向となっています。



（資料：総務省統計局「国勢調査報告」）

（図 I - 2） 人口・世帯数の推移

5 土地利用

本市は、全市域面積が489.49km²であり、このうちの23.9%、11,685haが都市計画区域に指定され、市街化区域は2099.1haの区域が指定されています。

総面積に対する土地利用の割合は、山林、原野、雑種地31.6%、宅地3.3%、農地2.4%等で、近年の推移では宅地の増加が目立っています。

都市計画区域においては、住宅用地15.2%、商業用地1.7%、工業用地3.3%、用途地域の定めのない地域（市街化調整区域を含む）79.8%の構成となっています。

本市の土地利用状況（地目別土地面積）は、（表I－1）のとおりです。

（表I－1） 地目別土地面積

年 次	総面積 (km ²)	田 (ha)	畑 (ha)	宅地 (ha)	山林 (ha)	原野 (ha)	雑種地 (ha)	その他 (ha)
平成30年	489	903	310	1,595	14,385	93	953	30,710
令和元年	489	896	305	1,601	14,349	92	998	30,708
令和2年	489	890	303	1,606	14,349	91	999	30,711
令和3年	489	884	301	1,609	14,361	92	998	30,557
令和4年	489	879	298	1,614	14,381	92	1006	30,679

（資料：課税課、各年1月1日現在）

6 産業別就業人口

本市の産業別の就業人口は、（表I－2）のとおりです。

（表I－2） 産業別就業人口

区 分		人 数 (人)	割 合 (%)
就業者数	男	29,313	53.3
	女	25,703	46.7
	合 計	55,016	100.0
就業人口	第一次産業	1,180	2.1
	第二次産業	12,733	23.1
	第三次産業	39,365	71.6
	分類不能産業	1,738	3.2
	合 計	55,016	100.0

（資料：総務省統計局「国勢調査報告」（令和2年））

(空白)